

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1191800166		
法人名	株式会社 ウイズネット		
事業所名	グループホームみんなの家草加青柳		
所在地	埼玉県草加市青柳6-26-6		
自己評価作成日	平成26年1月16日	評価結果市町村受理日	平成26年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ケアシステムズ		
所在地	東京都千代田区一番町6-4-707		
訪問調査日	平成26年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との連携を大切にし、運営推進会議等で皆様と相談しながら運営しています。昨年は地域の皆様とピクニックに行ったり、いろいろな行事に参加して頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平屋作りの事業所の中は、吹き抜けのある明るいフロアが中心にあり、入居者の多くはやわらかな陽射しの中で日中を過ごしている。オープンして2年目を迎えるが、地域との関係作りを力を入れた成果が実っており、フロアには地域の方から送られた雛人形が飾られるなど、家族や地域の方々が訪れやすい開放的な雰囲気が感じられた。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着した理念を管理者と職員が共有し実践している。	各フロア職員室にホームの理念「家庭的で暖かなグループホーム」が掲げられており、職員全員に周知徹底し、サービスに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加し、交流を図るとともに、日頃から地域の皆様に溶け込める様、管理者も職員も努力している。散歩の途中で地域の方と話をしたり、近所の商店での買い物支援をしている。	オープンして2年目であるが、地域との交流が盛んであり、祭りの参加、保育児童交流、また職員が町会行事に参加するなど、地域に溶け込み交流を深め地域の一員となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方との会話の中で認知症の人について理解を頂ける様、話をしたり、支援の方法を説明している。今後は「オープンセミナー」を開き、より一層地域に貢献できる事業所を目指していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、地域包括支援センターの方や、民生委員様等に参加して頂き報告・話し合いを行い、サービス向上に活かしている。	運営推進会議には、地域包括職員、民生委員の他に家族の半数以上が参加している。家族からの議題の提案もあり、活発な意見交換が行われていることが確認できた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連携を取り、協力を築いている。入居者様も紹介して頂いている。	市役所より空室情報がの問い合わせなどがあるため、事業所からも情報を提供し連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回「身体拘束委員会」を開催し、「禁止の対象となる具体的な行為」を勉強し、実践している。	事業所では、身体拘束は行われていない。本部での研修は定期的に行われており、ホーム長をはじめ職員の参加もあり、職員会議においてホーム内研修として職員全員に周知している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を行い、皆で意見を出し合い、虐待防止について話し合っている。今まで1度も虐待は行われた事はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	開所前の研修時に権利擁護について話し合いを持ったが、今の所該当者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時契約書に基づき、丁寧に説明し納得のうえ署名捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に1回の家族会において、意見をお聞きし運営に反映させている。また、個人的な事は電話や面会時に適宜お伺いしている。	運営推進会議の一カ月前には開催のがきを送り、多くの出席となるように努めている。不参加の家族に対しては、必ず電話で意見を伺い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やフロア会議で話し合い、運営に関する職員の意見や提案を反映させている。	1か月に1回のフロア会議で集められた職員の意見は、職員会議にて提案され、運営に反映させる仕組みがある。また、職員からの相談などについては、フロア長やホーム長が個別に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社と連携を取り、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を通し、日々介護技術の向上努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームの集まりに出席し、意見を交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実調に伺った時に、話を聞かせて頂き入居されてからも安心して暮らして頂ける関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実調時からご家族と話し合い、気持ちに寄り添えるよう配慮しながらより良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の話の中からもまず必要な支援を提供できるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等できることは職員と一緒にやって行い、自分の家で過ごしているように生活していただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご意向に添いご本人とご家族の関係を良好に保ち、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来て頂いたり、買い物や外食に行く等支援している。	家族と一緒に墓参りに出かける他、美容室や買い物など、希望に応じて馴染みの場所へ出かける機会を設けている。知人からのお手紙や電話の取り次ぎなども行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時に合った環境作りをし、お互いに関わりが保てるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も相談されたこと等については入居時と同様に対応させて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からご希望やご意向を伺えない場合は、職員とご家族で話し合い本人本位に検討している	事業所の方針である「その人らしく」暮らせるように、日々の関わりの中で、一人ひとりの意思を尊重しながら支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	現在までの生活歴を伺い、どのような暮らし方をされ、サービスを受けてこられたかを把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご自宅での一日の過ごし方等、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月と6か月後にモニタリングを行い、アセスメント・サービス担当者会議の内容を反映させ介護計画を作成している。	居室担当者、フロア担当者、計画担当者で入居者の意向を把握し、アセスメントを行い、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録に記入し、情報の共有をほかり実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ひとりひとりに合ったサービスが出来る様、職員同士意見を出し合い対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	神社に初もうでに行ったり、カラオケサークルの方にイベントに参加して頂いている。近くの保育園の園児を招待する計画をたてている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診時に診察を受け、適切な医療を受けられるよう支援している。	一か月に2回のかかりつけ医の診察の他に近隣の医院とも連携を図り、緊急時の受診など適切な医療の支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	クリニックの看護師や医療連携の看護師に報告、相談し個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携室の方と連絡を取り合い入院時の情報交換や相談に応じ、早期退院に繋がるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化された方について、医師や医療連携の看護師と相談し対応している。	オープンして2年目のため、現在のところ重度化の入居者はいないが、家族からのニーズもあるため、ホーム長、フロア長を中心として職員への勉強会を積極的に行い、見取りケアを常に念頭に置いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時に応急手当や初期対応ができるよう、研修を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、昼夜とも安全に避難していただけるよう身につけている。ハザードマップも準備している。	1年に2回行われる防災訓練には、地域住民の参加もある。ハザードマップや備蓄も常備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であるとの自覚を持ち、尊敬の気持ちで接している。	入居時のアセスメントから生活歴を確認し生活環境を理解することで、入居者一人ひとりに合った言葉かけや対応に努めるとともに、心を込めた個別の接遇を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から思いや希望がくみ取れるよう努めているとともに、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の体調や気持ちを優先し、その日をどのように過ごしたいか、希望に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ひとりひとりの気持ちに合った身だしなみやおしゃれが出来る様、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前にメニューの説明をしたり、個別に対応出来る人はしている。また一緒に食後の片づけをしている。	昨年度の課題であげた「おやつ作り」や、個別の嗜好に対応したレクリエーションについて、今年度は食を楽しむ工夫として「バイキング」を行い、好評を得ている。入居者の笑顔の写真がリビングに飾られていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事表を作り、主食・副食水分量を記録し、必要な量が摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ひとりひとりに応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄されるよう支援している。不可能な方はPTイレを使用していたり等、自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表にて個別対応をしており、夜間でもできる限りトイレ誘導を行い、排泄を促している。夜間誘導の困難な入居者にはポータブルトイレでの支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給や体操を行い、できるだけ薬を使用されない様な支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間を決めずに、その方の気持ちに添って入浴していただいている。	曜日や時間を決めず入居者の希望を優先したことから、入浴拒否の入居者もなく、家族からは感謝の声も届いている。	昨年同様、季節感や個別希望を考慮しての入浴を楽しむ工夫が必要と思われる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は自由に休んで頂いているが、長時間入眠されると、昼夜逆転になるのでお声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をよく読み理解するように努め、日々の変化に早く気づき医師に報告相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合った役割分担をし、実行されている。また趣味を活かした作品作りをしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い暖かい日には散歩をしていただいている。また希望がある時には買い物支援をしたり地域の人との交流を図っている。	季節行事として春の花見ドライブや、秋の紅葉狩り、近隣の神社へ初詣に行くなどの外出支援を行っている。近くのコンビニエンスストアへ買い物に出かけるなど地域との交流も図っている。	家族アンケートからも日常的な外出支援の希望が多く寄せられたことから、日々の散歩時間の工夫などの流れを作り出す、更なる努力に期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の時にはお金を所持し、ご自分で使用していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話や郵便物のやりとりは自由にいただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境を整え気持ちよく過ごされる様、配慮している。また季節に応じて掲示物もかえている。	共有スペースは吹き抜けの高い天井から日が差込み、足を伸ばせるソファが置かれ手編みのクッションが家庭の味わいを添えている。職員手作りの雛人形も飾られており、家庭を感じさせる空間の中で、入居者がくつろぐ姿もみられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで皆様と過ごされたり、ひとりで休まれたりできる場所づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に使い慣れたものを置かれ、ご自分の家と同じように生活されている。	事業所では使い慣れた家具などの持ち込みが自由となっている。筆筒や裁縫道具など、好みのものを置き、居室で裁縫をするなど、自宅で過ごしていたように居心地よく暮らせるような支援が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害物をなくし、安全な環境作りをしている。またトイレへの案内の貼り紙を貼るなど、ひとりひとりのできることを活かしてできるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		

## 目標達成計画

作成日：平成 26年 4月 8日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	17	季節に合った入浴を準備しても浴槽に入れるものによっては全員が参加されることは困難である。	季節感や個別希望を考慮しての入浴を楽しんで頂ける様工夫する。	浴槽に入れたものを食べてしまわれぬ様に、ガーゼの袋に入れたり工夫するとともに個別希望を優先した入浴を楽しんで頂く。銭湯に行きたいと希望される方には草加市総合福祉センターが近いのでご家族とも相談し大浴槽で入浴して頂く。	3ヶ月
2	49	天候や職員の数により日常的な外出支援の希望に対応出来ないことがある。	日々の散歩時間の工夫をし、日常的な外出支援を実行出来る様、努力する。	天気の良い暖かい日には、散歩の時間を1日の計画に入れ実行する。またご家族が面会された時に時間のある方には同行をお願いする。	3ヶ月
3	33	ご家族より「看取り」迄行ってほしいとの要望があったが、医療との連携が難しく実行出来ない。	地域の関係者や医療と連携し、「ターミナルケア」を行う。	病院での勤務経験のある職員を中心に勉強会を行い、「ターミナルケア」について学ぶとともに、ご家族や主治医と具体的な方法について話し合う。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。